

【3月の気象】

松山の1月と2月の月平均気温の差を平年値（1991～2020年）で見ると2月が「0.6℃」高くなっていますが、2月と3月では「3.1℃」となり、気温の上昇が顕著となってきます。同様に月間日照時間の差でも、1月と2月の「13.0時間」から2月と3月では「32.9時間」と約2倍の差となっており、3月になると春の訪れが実感出来るようになります。さくらの開花の平年日も、松山（道後公園の生物季節標本木）では3月24日ですので、こちらでも春の訪れが感じられます。

このように季節が変わるこの時期は、日本付近を高気圧と低気圧が交互に通過して天気が周期的に変化することが多く、高気圧に覆われ晴天となったり、低気圧が通過した後に冬型の気圧配置で真冬並の寒さになったり、低気圧からのびる寒冷前線の通過時には、雷、突風、竜巻、ひょう等が発生することがあります。また、低気圧が日本海で発達すると広い範囲で暖かい南よりの強い風が吹くことがあり、これが立春から春分までの間で初めて吹いたとき「春一番」といいます。

そのほか、空気が乾燥して火災が起こりやすい時期です。火の取扱いに注意してください。

【気象用語】「生物季節観測」とは

気象台が行う「生物季節観測」とは、うめの開花やさくらの開花・満開をした日、いろはかえでの紅葉やいちじょうの黄葉、いろはかえで・いちじょうの落葉をした日などの観測をいいます。

観測された結果は、生物に及ぼす気象の影響や、季節の遅れ進み、気候の違いなど総合的な気象状況の推移を把握するのに用いられるほか、新聞やテレビなどにより生活情報の一つとして利用されています。

ここで、うめやさくらの開花日とは、気象台が定めた標本木に5～6輪以上の花が咲いた最初の日をいいます。また、さくらの満開日とは、標本木で約80%以上のつぼみが開いた最初の日をいいます。



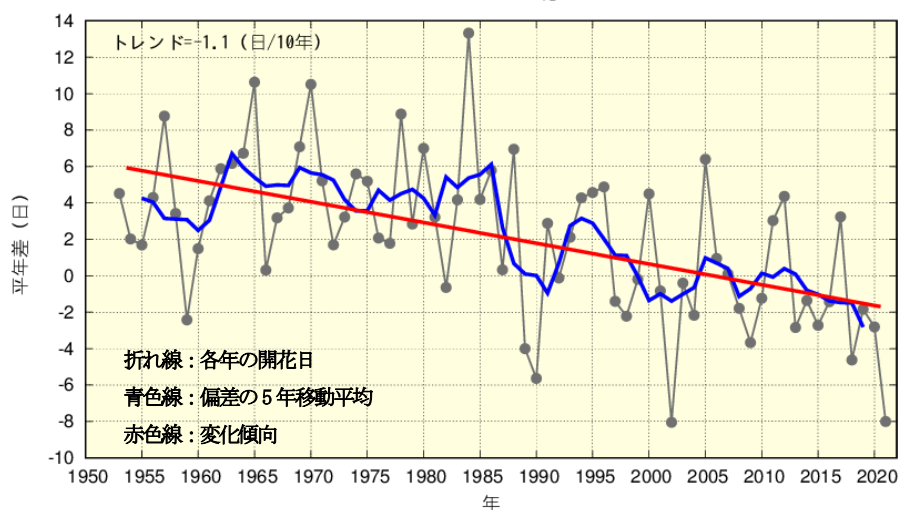
さくらの開花



さくらの満開

気候変動などによって、さくらの開花日は、全国的に10年あたり1日程度早くなっています。

【全国平均】 さくらの開花日の平年差



なお、松山地方気象台が観測しているさくらの開花は10年あたり1.0日早くなっています。

生物季節観測について（松山地方気象台）→<https://www.data.jma.go.jp/matsuyama/kansoku/shoku.html>

生物季節観測の情報（気象庁）→<https://www.data.jma.go.jp/sakura/data/index.html>